

2017 年度第 1 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2017 年 8 月 2 日 16:30~17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2017 年度第 1 四半期決算の概要 及び 2017 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの営業利益について、16 年度第 4 四半期から 17 年度第 1 四半期、また、第 2 四半期にかけての動きを説明してほしい。

A1. 16 年度第 4 四半期から 17 年度第 1 四半期にかけては、主にエラストマー、機能性ポリマーの販売堅調、及び原料価格下落に伴う交易条件の改善により増益となりました。第 1 四半期から第 2 四半期では、定修の影響及び固定費の時期ずれによる営業利益の減少を見込んでいますが、需要は引き続き堅調であり、基調は変わらないものと見込んでいます。

Q2. モビリティセグメントの営業利益について、17 年度第 1 四半期の前年同期比での交易条件悪化の理由と、北米の自動車販売状況悪化の今後の影響について説明してほしい。

A2. 交易条件については、17 年度第 1 四半期は比較的原料価格が安定していた一方、16 年度第 1 四半期は原料下落局面だったため、比較すると悪化していますが、数量面を含め事業の状況としては堅調に推移しています。北米の自動車販売台数については減少が見込まれるものの、SUV、ピックアップトラック等、1 台あたりの樹脂使用量の多い大型車への当社 PP コンパウンドの採用が進んでいることから、当社材料の販売数量としては横ばいを見込んでいます。

Q3. モビリティセグメントにおいて、北米以外の自動車関連材料及び ICT 関連用途の状況について説明してほしい。

A3. 自動車用途については、タイで輸出用車種向けの販売数量が増加している他、中国においても日系 OEM の好調により堅調に推移しています。ICT 用途については、機能性ポリマー等が堅調に推移しています。

■ヘルスケアセグメント

Q4. ヘルスケアセグメントの営業利益が 16 年度第 4 四半期から 17 年度第 1 四半期で増益となっている理由について説明してほしい。

A4. ビジョンケア材料を中心に販売が堅調に推移したことによるものです。

Q5. 不織布事業の流通在庫調整局面からの回復状況について説明してほしい。

A5. 昨年の在庫調整から現在は回復局面に入っており、販売数量は前四半期を上回りました。収益面ではまだ原料価格上昇の影響を受けていますが、第 2 四半期以降の回復を見込んでいます。

Q6. ビジョンケア材料事業の動向及び周辺分野への展開状況について説明してほしい。

A6. 高屈折メガネレンズモノマーの販売は堅調に推移しています。周辺分野への展開は下期に織込んでおり、今後計画を進めてまいります。

■フード&パッケージングセグメント

Q7. フード&パッケージングセグメントの営業利益について、17 年度第 1 四半期から第 2 四半期にかけての動きを説明してほしい

A7. 包装フィルム、産業フィルムともに需要は堅調であり、販売数量の増加を見込んでいます。農薬については第 2 四半期で研究開発費の増加を見込んでおり、セグメント全体の損益は微減となる見込みです。

■ 基盤素材セグメント

Q8. 基盤素材セグメントの営業利益について、16 年第 4 四半期から 17 年第 1 四半期、また第 2 四半期にかけての減益理由について説明してほしい。

A8. 16 年度第 4 四半期から 17 年度第 1 四半期の減益の内、大部分はブタジエンを中心とした石化製品の市況軟化によるものです。第 1 四半期から第 2 四半期の減益は、主に定修やコストの期ずれ等の影響によるものです。

Q9. 基盤素材セグメントの 17 年度第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、市況悪化を織込んでいく理由につき説明してほしい。

A9. 年初の見通しの時点においても、16 年度後半より高騰していたオレフィン市況については徐々に軟化するものと見込んでおり、今回も同様の見通しとしています。

Q10. 基盤素材セグメントにおける 17 年度第 1 四半期の営業利益につき、前年同期比でどの事業が増益となっているか、内訳につき説明してほしい。

A10. 石化を中心に、基礎化、ウレタンともに増益となっています。

Q11. アジアのオレフィン市況の見通しについて説明してほしい。

A11. エチレンの需要が強くタイト感のある中、サプライヤーの定修やトラブルにより市況が敏感に反応する構造になっていると考えています。17 年度第 1 四半期は主要サプライヤーの定修の影響もあり、オレフィン市況は高水準で推移しました。ただし 18 年度にかけてシェールベースのオレフィンが出てくると見ており、通期ではその影響を織込んだ業績見通しとしています。

Q12. エチレンやブタジエンは、どの程度市況の影響を受ける構造になっているか説明してほしい。

Q12. エチレンは自消比率が高く、市況の影響は大きくありません。ブタジエンは外販していますが数量が少なく、構造的には全体における損益影響は大きくないものの、16 年度の第 4 四半期は市況が急騰していたため、17 年度第 1 四半期にかけては営業利益の減少要因になりました。

Q13. TDI 及びフェノールのアジア市況見通しにつき説明してほしい。

A13. 第 1 四半期の TDI 市況は 3,000\$/t を超える水準で推移しました。第 2 四半期については供給サイドのトラブル解消等に伴い、徐々に軟化していくと想定しています。フェノールは、第 1 四半期については中国市況を中心に厳しい状況でした。第 2 四半期についても同程度の水準を見込んでいます。

Q14. 主要製品の稼働率を教えてください。

A14. クラッカー	1Q : ほぼフル稼働	2Q : 概ねフル稼働(定修を除く)
ポリオレフィン	1Q : ほぼフル稼働	2Q : ほぼフル稼働(定修を除く)
フェノール	1Q : フル稼働	2Q : 概ねフル稼働(定修を除く)
P T A	1Q : 国内 80%程度	2Q : 国内 80%程度
T D I	1Q : フル稼働(定修を除く)	2Q : フル稼働

Q15. 17 年度第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、クラッカーの稼働率が定修の影響を除いても下がる見込みとしている理由につき説明してほしい。

A15. 誘導品も第 2 四半期で定修に入るため、それに合わせて若干のロードダウンを見込んでいます。

■ 全社

Q16. 17 年度第 1 四半期の持分法投資損益について、前年同期比、前四半期比での改善理由を説明してほしい。

A16. 前年同期比、前四半期比ともに、主にウレタン及び中国フェノールの持分法子会社の改善によるものです。